

**発達障害者 運転後押し**

年 組 名前

民間開発のプラン「つばさプラン」を県内で唯一導入している茅野自動車学校で、南信地方の男性が初めてプランを利用しての運転免許取得を目指しています。プランの内容と良さ、課題などについて、記事を読んでみましょう。

- ①つばさプランとは、どんな内容ですか。左上の解説記事を読んで、（ ）に入る適切な言葉を書きましょう。

栃木県の鹿沼（ ）は（ ）年から、発達障害の支援方法や効果などについて宇都宮大と共同で研究。発達障害への理解を広める講習や（ ）などを進めている。現在の研究会加盟校は（ ）校。2020年12月までに同プランを利用した約（ ）人が運転免許を取得した。

- ②つばさプランでは、発達障害者などの運転免許取得を支援するために、説明や用語にどんな工夫をしたり、配慮したりしていますか。

- ③男性は、文字の読み書きなどで、どんなことが難しいのですか。具体的に書きましょう。また、どんなことはできるのですか。

難しいこと—

できること—

- ④茅野自動車学校は、具体的にどんな支援を行うと決めましたか。

- ⑤男性の母親は、何と話していますか。

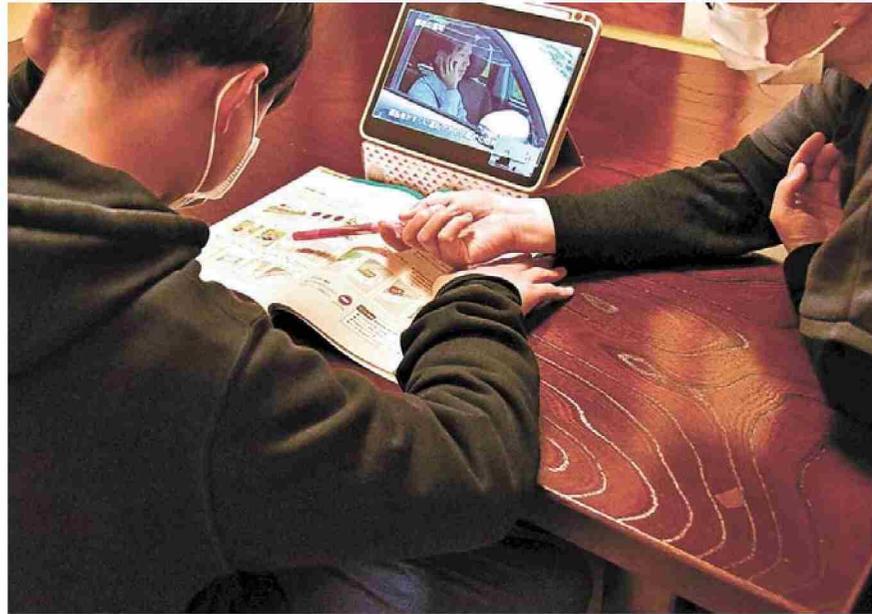
- ⑥早稲田大教育・総合科学学術院の梅永雄二教授は、発達障害者の運転免許取得の意義について、発達障害者の社会参画支援の面で何と強調していますか。

# 発達障害者 運転後押し

## 茅野の教習所「プラン」利用者を初受け入れ

### 問題文読み上げで仮免合格

発達障害者などの運転免許取得を支援する民間開発のプラン「つばさプラン」を県内で唯一導入している茅野自動車学校（茅野市）で、南信地方の男性18人が初めてプランを利用して免許取得を目指している。男性は文字の読み書きなどに困難を抱える学習障害（LD）があり、特別支援学校で学んでいる。昨年11月末の仮免許取得時の学科試験では、問題文の一部を読み上げる措置で合格。今年中の免許取得を目指している。



自宅でオンラインで学科教習を受ける男性（左）。母親から教本の該当箇所を示してもらう＝2021年12月21日

つばさプランは発達障害者などを対象に、運転免許取得に必要な学科や実技の習得を支援。説明に絵や図を用いたり、用語を平易な表現に改めたりしている。

男性はひらがなや片仮名を読んだり、書いたりすることが難しいが、一部の漢字を拾い読みすることはでき、商品説明書の内容を理解できることもある。

地元には公共交通機関が乏しく、生活には車が欠かせないが、母親（57）は男性の免許取得は難しいと考えていた。昨夏に茅野自動車学校がつばさプランを導入していることが知って男性に了解を取り、同校や運転免許センターに相談。9月末、同校が初のプラン利用者として受け入れた。

同校は他県でのプラン実績などについて情報を集め、校内模擬試験で問題文の読み上げを行うと決めた。男性も自宅で参考書の問題を母親に読み上げてもらって約2カ月間学習。実技は特に支援を受けることなく実習を重ねた。

警察庁は2005年、障害者への配慮について「自動車等の運転に必要な知識を確認する」という目的を損なわない範囲内で、問題の表現を適切なものにするよう求める内

容の通達を出した。男性は昨年11月の仮免許の学科試験で、試験官が読み上げた50問に回答して合格。中南信運転免許センター（塩尻市）によると、読み上げは「極めてまれな事例」という。

男性は「一発合格」は予想していなかったため、「本当に受かったのか実感がなかった」。22年に挑むつもりの本免許取得試験は50分間で95問。「自信はないけれど、たくさん勉強する」と意気込む。地元食品工場への就職も決まっており、「免許が取れたら家族を乗せて松本に映画を見に行きたい」と話す。

母親は「周りが少し手を差し伸べてくれたらこんなに頑張れるんだと思った」と話す。茅野自動車学校の職員でつばさプランを担当する土橋大地さん（47）は「地域の専門家と連携して指導側のスキルアップや支援体制の整備を進めた」としている。

同プランの創設に携わった早稲田大教育・総合科学術院の梅永雄二教授（66）は「発達障害臨床心理学」は、男性の試験での問題文読み上げについて「全国的にもあまり聞かない先進的な取り組み」と評価。「自動車という移動手段を獲得することで仕事の種類やエリア、趣味の活動範囲など、選択肢を広げることができると発達障害者の社会参加支援の面で意義を強調している」。

つばさプラン 道交法では、てんかに障害を及ぼす恐れがあるケースについては運転免許を取得できない場合があると定めるが、発達障害はこれに含まれない。鹿沼自動車教習所（栃木県鹿沼市）は2011年から、発達障害の支援方法や効果などにつ

いて宇都宮大（宇都宮市）と共同で研究。18年に各地の教習所5校と全国研究会を立ち上げ、発達障害への理解を広める講習や事例共有などを進めている。現在の研究会加盟校は19校。同研究会によると、20年12月までに同プランを利用した約300人が運転免許を取得した。

**発達障害者 運転後押し****解答例**

年 組 名前

民間開発のプラン「つばさプラン」を県内で唯一導入している茅野自動車学校で、南信地方の男性が初めてプランを利用しての運転免許取得を目指しています。プランの内容と良さ、課題などについて、記事を読んでみましょう。

①つばさプランとは、どんな内容ですか。左上の解説記事を読んで、（ ）に入る適切な言葉を書きましょう。

栃木県の鹿沼（ **自動車教習所** ）は（ **2011** ）年から、発達障害の支援方法や効果などについて宇都宮大と共同で研究。発達障害への理解を広める講習や（ **事例共有** ）などを進めている。現在の研究会加盟校は（ **19** ）校。2020年12月までに同プランを利用した約（ **300** ）人が運転免許を取得した。

②つばさプランでは、発達障害者などの運転免許取得を支援するために、説明や用語にどんな工夫をしたり、配慮したりしていますか。

**【解答】** 説明に絵や図を用いたり、用語を平易な表現に改めたりしている

③男性は、文字の読み書きなどで、どんなことが難しいのですか。具体的に書きましょう。また、どんなことはできるのですか。

難しいこと— ひらがなや片仮名を読んだり、書いたりすること

できること— 一部の漢字を拾い読みすることはでき、商品説明書の内容を理解できることもある

④茅野自動車学校は、具体的にどんな支援を行うと決めましたか。

**【解答】** 校内模擬試験で問題文を読み上げる

⑤男性の母親は、何と話していますか。

**【解答】** 周りが少し手を差し伸べてくれればこんなに頑張れるんだと思った

⑥早稲田大教育・総合科学学術院の梅永雄二教授は、発達障害者の運転免許取得の意義について、発達障害者の社会参画支援の面で何と強調していますか。

**【解答】** 自動車という移動手段を獲得することで仕事の種類やエリア、趣味の活動範囲など、選択肢を広げることができる